

評価結果公表票

作成日 平成21年9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0272700980
法人名	特定非営利活動法人 柳沢
事業所名	グループホームいちよの郷
所在地	青森県三戸郡階上町大字赤保内字柳沢15-269 (電話)0178-80-1007
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年6月15日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算	8.73人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(平成21年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	6 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.9 歳	最低 66 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総合リハビリ美保野病院 松平病院 小松内科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来の信条である理念の中に「自立支援を目指したい」「人生の大先輩としてその尊厳を大切にしたい」「生き甲斐、生活のうるおい、喜びを提供したい」という3つの柱を掲げ、管理者の指導のもと、職員が一丸となって日々のケアに取り組んでいる。  
動き出したばかりの運営推進会議をきっかけにして、夏祭りを恒例行事として定着させることで、地域住民の理解と協力を得ている。また、地域住民や運営推進会議委員との交流の場となっている。  
地域のグループホーム協議会に加盟し、外部研修の中でも食中毒・感染症等に関して毎年義務付けて受講しているほか、利用者の食の安全と衛生面の徹底を心掛けている。また、職員の資質向上のため、救急救命講習の定期的な受講と振り返りも継続して取り組んでいる。  
利用者の受診時はホーム側で介助支援しており、かかりつけ医の中には月1回の往診体制のほか、特変時には看護師と連携し、速やかな対応が取られるようになっている。  
介護度の高い利用者も多く、実際に重度化や終末期ケアも実践しており、利用者や家族の希望に沿えるよう取り組んでいる。

【特に改善が求められる点】

職員も自己評価に関わることで、より自らのケア内容の振り返りになるものと思われるので、全職員で取り組むことに期待したい。  
例年継続して受講している外部研修や、救急救命講習等の内部学習を含めた年間研修計画を作成し、職員の経験に合わせた計画的な育成に役立てることに期待したい。  
重度化対応の実績を基に、事業所としての方針を話し合い、今後明確にすることを期待したい。  
災害時のエレベーター対策や介護度が高い利用者の多い2階ユニットへの対応が迅速に行われるよう、夜間を想定した具体的な誘導策を作成することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの役割について全職員で話し合い、改めて理念を見つめ直し、認識を深めたほか、日常生活支援事業や高齢者虐待に関しても会議の中で取り上げ、理解を深めている。災害時備蓄品の用意も前回の外部評価結果を基に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議等で評価の意義や主旨を理解する機会を持ち、職員は理解しているほか、自己評価や外部評価結果の改善項目について、職員会議等の中で取り上げ、改善に向けての話し合いが持たれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会、民生委員、婦人会、役場担当課が参加しており、それぞれの立場からの意見を得ている。 町役場担当課からはほぼ毎回の参加を得ており、自己評価や外部評価結果の報告や改善策へ向けての意見交換を行うなど、地域との関わりの中で大きな力となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>健康状態や受診状況など、緊急を要する場合は随時電話連絡を行っている。また、利用者の暮らしぶりや職員の異動などは、家族の面会時に報告しているほか、お小遣いの出納簿は定期的に報告し確認を得ている。 家族の面会時には担当職員を中心に、積極的に家族の意向を引き出すよう努めているほか、苦情受付窓口の周知を図り、家族等の意向を反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に昔なじみの地域住民との交流を図ったり、運営推進会議に地域の代表や民生委員、婦人会等の参加を得ており、交流を深めている。 また、恒例となっている夏祭りやえんぶり組の慰問行事の際に、地域住民に案内し、参加を呼びかけている。 利用者のプライバシーに配慮し、婦人会や保育園児の慰問ボランティアを受け入れ、認知症に関する普及活動に取り組んでいる。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>開設当初からの理念を守りながら、家族と旧部落・新興団地住民との交流の機会を設けるため、夏祭りを定着させているほか、運営推進会議の委員でもある婦人会や近隣の保育園児の慰問行事も恒例行事となっており、利用者の楽しみの一つとなっている。 また、地域のグループホーム協議会に加盟し、外部研修の場に参加しながら同業者との交流も図っており、中でも食中毒・感染症の研修が毎年の予定に組み込まれており、職員が交代で受講しているほか、救急救命講習の受講と定期的な内部学習会も持たれ、重度化対応に向けても職員の育成に力を入れている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居に向けての利用者・家族を含めた話し合いの中で不安や意向を引き出しながら、その解決を一緒に図り、無理のない利用開始となるよう配慮している。 利用者一人ひとりを人生の大先輩として敬う姿勢のケアを心掛けて、その思いに寄り添いながら、理念の「生き甲斐、生活のうらおい、喜びの提供」を目指し、利用者と同じ目線で喜びや哀しみを共有できるよう、アセスメントシート等より個性を把握し、日々のケアに努めている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画には実施期間を明示しており、3ヶ月毎の見直し時には、利用者や家族の意向の変化や身体状況の変化等を踏まえた計画が作成されている。また、必要に応じて随時適切な見直しが行われている。 介護計画には実施期間を明示しており、3ヶ月毎の見直し時には、利用者や家族の意向の変化や身体状況の変化等を踏まえた計画が作成されている。また、必要に応じて随時適切な見直しが行われている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者のペースに合わせた支援を行っており、利用者の希望や体調に配慮した生活が提供できるよう心掛けている。また、利用者の自立支援を目指した取り組みを行っている。 また、利用者毎に趣味や特技を引き出したり、習慣や性格を考慮し、日々の生活の中でそれぞれの出番や役割を持つことにより、生き甲斐に通じるような支援を心掛けている。 備え付けのベットとチェストのほか、利用者のお気に入りのぬいぐるみを置くなど、馴染みの物を持ち込むよう、家族へ働きかけている。また、担当職員と共に家族のスナップ写真や愛犬の写真を飾るなど、一人ひとりに合わせた居心地の良い居室となっている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念である「自立支援。人生の大先輩としてその尊厳を大切にします。生き甲斐、生活のうるおい、喜びの提供」を掲げ、職員会議の中で地域密着型サービスの役割りをどのように実現すべきか話し合い、実践しようと全職員が前向きに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで唱和しつつ、管理者の指導の基に職員一人ひとりが理念に添ったケアを実践するよう心掛けており、利用者本位の姿勢で取り組むよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に昔なじみの地域住民との交流を図ったり、運営推進会議に地域の代表や民生委員、婦人会等の参加を得ており、交流を深めている。また、恒例となっている夏祭りやえんぶり組の慰問行事の際に、地域住民に案内し、参加を呼びかけている。更に、利用者のプライバシーに配慮しつつ婦人会や保育園児の慰問ボランティアを受け入れ、認知症に関する普及活動に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で評価の意義や主旨を理解する機会を持ち、職員は理解している。また、前回の外部評価結果を基に、全職員で話し合いを行っているが、職員が自己評価作成に関わるまでには至っていない。	○	職員も自己評価に関わることで、より自らのケア内容の振り返りになるものと思われるので、全職員で取り組むことに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、民生委員、婦人会、役場担当課が参加しており、それぞれの立場からの意見を得ている。また、自己評価・外部評価結果についても報告し、出された意見等はサービスの質の改善に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場・社協にパンフレットを配布すると共に、運営推進会議への継続的な参加を得ている。また、自己評価・外部評価結果の報告をすると共に、ホーム運営上の問題点等について積極的に相談するなどして、連携を図るよう努めている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議の中で資料を基に学習を行い、全職員で理解を深めるよう努めている。必要に応じて、利用に繋がるよう情報提供等の支援を行う体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で虐待について取り上げ話し合うほか、管理者を中心に全職員で虐待防止に努めている。また、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについて取り決めがあり、職員は理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って、ホームの理念やケア方針等の説明を確実にし、利用者や家族の意向を引き出すような対応を心掛けている。契約改定時及び退居時の説明も十分に行っており、同意を得ているほか、退居時には退居先の情報提供を行うなどの支援をしている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康状態や受診状況など、緊急を要する場合は随時電話連絡を行っている。また、利用者の暮らしぶりや職員の異動などを、家族の面会時に報告しているほか、お小遣いの出納簿は定期的に報告し確認を得ている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には担当職員を中心に、積極的に家族の意向を引き出すよう努めているほか、苦情受付窓口の周知を図り、家族等の意向を反映させるよう取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を十分認識しており、利用者を第一に考えた対応を心掛けている。また、新人職員については確実な引継ぎを行い、利用者や家族への十分な説明をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務に関する相談等を、現場経験の豊富な主任が行っている。また、運営者は職員の資質向上の必要性を認識し、外部研修等へ職員を参加させているほか、職員の力量に合わせた受講の機会を設けている。研修後は復命書を義務付け、研修資料を基に伝達講習会を行うことで、全職員に周知しているが、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	例年継続して受講している外部研修や、救急救命講習等の内部学習を含めた年間研修計画を作成し、職員の経験に合わせた計画的な育成に役立てることに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に所属し、研修の場等を通じて同業者との交流や連携を目指しており、運営者を始め、管理者や職員共に、日々のケアサービスの向上の活力として交流に取り組む姿勢がある。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付段階から、利用者や家族の意向に耳を傾け、無理なく馴染みながら入居できるよう調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の「生き甲斐、生活のうるおい、喜びの提供」を目指し、利用者と同じ目線で喜びや哀しみを共有できるよう、アセスメントシート等より個性を把握し、日々のケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の視点に立ち、その思いや経験、意向を把握している。また、意向が十分に把握出来ない場合は、全職員の日々の関わりからの気づき等で把握している。必要に応じて利用者をよく知る家族や関係者等からの情報収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族等の意向を踏まえ、計画作成者・担当職員が中心となり、カンファレンスの場で全職員の意見や気づきを取り入れて、利用者本位の個別具体的な計画を作成している。必要に応じて家族や関係者等より情報収集を行っている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間を明示しており、3ヶ月毎の見直し時に、利用者や家族の意向の変化や身体状況の変化等を踏まえた計画が作成されている。また、必要に応じて随時適切な見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前からのかかりつけ医の受診を継続して受けられるよう支援しているほか、季節毎の外出支援も定期的に提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの受診状況の把握と共に、継続した受診支援を行っており、医療機関と定期的な往診や相談に応じてもらえる関係を築いている。受診内容は面会時や電話連絡により家族に報告しており同意を得ている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護度の高い利用者も多く、利用者・家族・医療機関等との話し合いのもと、意思統一を図っており、数例の重度化対応実績がある。しかし、事業所としての方針を明確にするまでには至っていない。	○	重度化対応の実績を基に、事業所としての方針を話し合い、今後明確にすることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人生の大先輩としてその尊厳を大切にします。」という理念に沿って、利用者の目線に立ったケアに努めており、個人情報保護の立場を守りながら、利用者のプライドやプライバシー等への関わり方に配慮して取り組んでいる。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援を行っており、一人ひとりの希望や体調に配慮した生活を提供できるよう心掛けている。また、利用者の自立支援を目指した取り組みを行っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好みを取り入れており、苦手な物がある場合は代替を用意するなど配慮している。また、利用者の状況や意思に応じて、食器拭き等の後片付けを行っている。職員は利用者の隣に座り、食事介助やさりげない支援を行い、おしゃべりを楽しみながら同じ食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握しており、週2回の入浴時には、出来る限り一人ひとりの意向を取り入れている。また、入浴による負担感やプライバシー保護を考慮した支援を心掛けているほか、入浴を拒否する場合は再度誘導をしたり、日を改めて勧める等の工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中でそれぞれの役割りや楽しみごとを持つよう、一人ひとりの趣味や特技を引き出したり、習慣や性格を考慮するなど、生き甲斐に通じるような支援に努めている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を散歩したり、近くの道の駅やホームセンターに買い物に出かけるなど、日常的に外出する機会を設けており、利用者の体調や天候に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の機会を持ち、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、介護度の上昇による重度化によって、やむを得ず身体拘束を行う場合は、経過観察等の記録の義務は勿論のこと、家族からの同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターの出入りの危険を考慮して家族の了解を得て2階のドアのみ施錠しているが、居室に鍵はなく、1階の玄関にもセンサーの設置によって鍵をかけていない。また、外出傾向の強い利用者に対しては、見守りや付き添い等の支援を行っている。無断外出時に備え、近隣住人の協力が得られるよう継続した働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、簡易食料や飲料水の用意をしているほか、運営推進会議参加者を対象に、災害時に協力が得られるよう働きかけている。また、消防署の指導を含め、年2回の避難訓練も実施しているが、夜間を想定した具体的な誘導策を作成するまでには至っていない。	○	災害時のエレベーター対策や介護度が高い利用者の多い2階ユニットへの対応が迅速に行われるよう、夜間を想定した具体的な誘導策を作成することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食業者と栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成しており、一日の摂取kcalを1,200~1,400kcal、水分摂取量を1,000~1,500ccを目安に提供しており、水分摂取量は記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定期的に外部研修を受講しているほか、感染症マニュアルを作成しており、行政からの通達事項に沿って見直しも実施している。訪問者や利用者への手指消毒や手洗い等の周知も図られており、感染症予防に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前や下駄箱前にベンチや椅子を設置したり、ホール内に畳張りの長椅子を置き、ゆっくりとくつろげる空間作りをしている。また、外の家庭菜園にはジャガイモ等の野菜が植えられており、職員が持ってきた季節の花々がテーブルに飾られている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベットとチェストのほか、利用者のお気に入りのぬいぐるみを置くなど、馴染みの物を持ち込むよう、家族へ働きかけている。また、担当職員と共に家族のスナップ写真や愛犬の写真を飾るなど、一人ひとりに合わせた居心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。